

2017年3月期第3四半期決算 電話会議 主なQ&A

- Q 北陸新幹線の直近のトレンドについてどう評価しているか。
- A 12月のご利用状況は対前年102%であるが、曜日配列の影響など特殊要因を除いた実勢は前年を若干下回る程度。11月までと比較すると高い数字である。直近1月のご利用状況についても、現時点では12月と同じような状況が継続しているが、年始の繁忙期が含まれていることには留意が必要。引き続き、ご利用状況を見ながら、実勢のトレンドを見極めたい。
- Q 特別損失が100～200億円規模で増加する可能性があるということだが、その詳細は。
- A 三江線の廃止に伴い、将来発生する可能性がある撤去費用等を今期に見積計上することを検討している。さらに、今年度末で終了予定であった、管理職の早期退職制度の延長に伴う退職給付引当金を積み増すにあたり、特別損失での計上を検討している。また、第3四半期において、ルクア1100のB1、B2のリニューアルに伴う減損損失等を約10億円計上したが、今決算において業績予想を修正していないため、結果として業績予想に織り込まれていない状態となっている。これらも含めた各要素を合計すると、業績予想に対して100～200億円規模の特別損失が増加する可能性がある。
- Q 三江線の廃止に伴う特別損失は、第2四半期に計上した鉄道事業固定資産の減損損失とは別か。
- A 鉄道事業固定資産についての減損損失25億円は、すでに第2四半期に計上し、業績予想にも織り込まれている。現在計上を検討している特別損失は、計上済みの減損損失とは別のものであり、将来発生する可能性がある三江線設備の撤去費用や廃止後の新たな交通プランにかかる費用負担などである。
- Q 菱重プロパティーズの株式取得に伴うのれん発生額は、いつ連結子会社化するのか。
- A のれん発生額については、監査法人と調整を行いつつ、期末決算での連結に向けて金額を精査している。なお、今年度は貸借対照表のみの連結で、損益計算書の連結は来年度となる。
- Q 来期の見通しは。
- A 山陽新幹線は、堅調な景気を背景に熊本地震の影響が解消する上、競争力強化のための施策も着実に打つことで増収につなげていく。北陸新幹線は、開業3年目を迎え定着化を図るが、今年度で収入が底打ちとなるかは、今後のご利用状況等を勘案しながら見極めたい。非鉄道事業については、ルクア1100内B1、B2フロアの改装工事に伴い、百貨店で減収を見込むが、菱重プロパティーズの新規連結、セブンイレブンへの店舗転換効果やヴィアイン新規開業などで、増収を図る。株主還元については、基本方針である連結ベースの自己資本総還元率3%程度はしっかりと達成する所存。なお、今年度と来年度のキャッシュフローを見極め、上振れ資金が残る場合には、必要に応じて使途を決定する。いずれにせよ、来年度は中計最終年度であり、これまでの取組みの成果をしっかりと出していく年とする。